桜淵

鳳来寺山自然科学博物館

山の湊

博物館ザッ記 No.31 2022-Ⅳ

新城城

新城市の名の由来になっている新城城は市役所の南、新城小学校が建つ段丘面にありました。

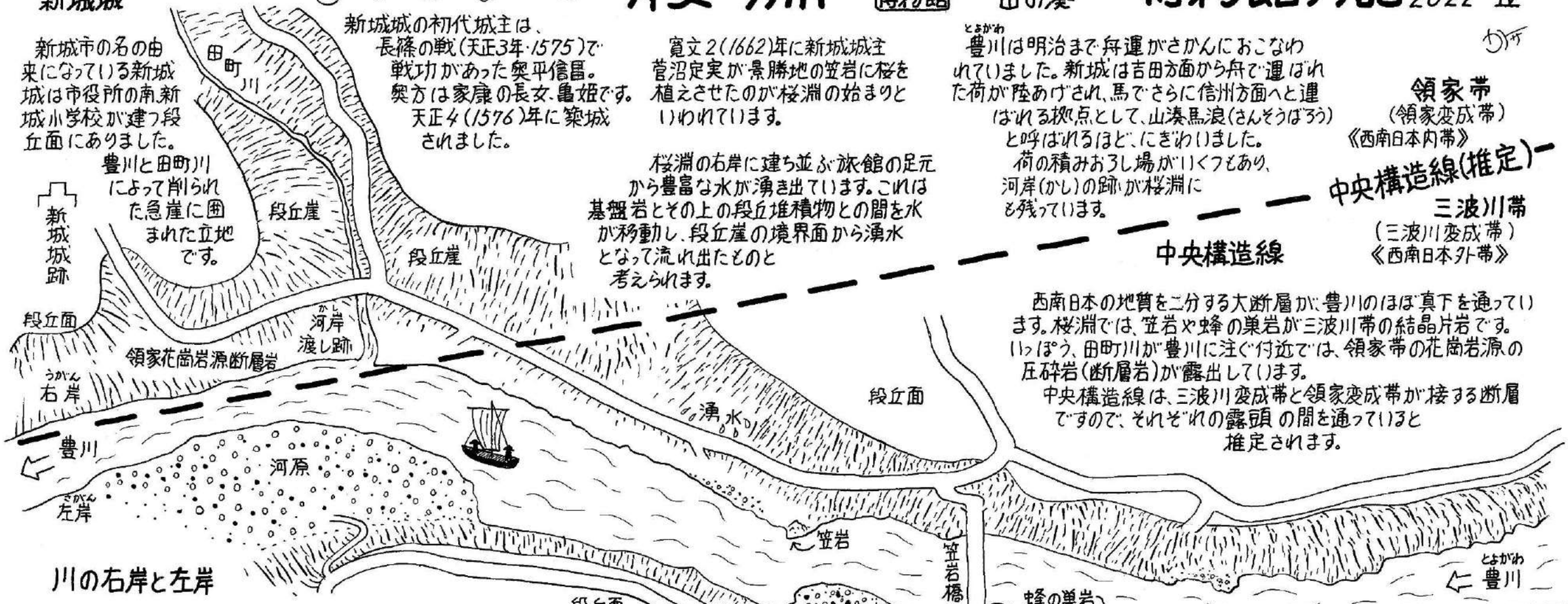
豊川と田町川によって削られた急崖に囲まれた立地です。

新城城の初代城主は、長篠の戦(天正3年・1575)で戦功があった奥平信昌。奥方は家康の長女、亀姫です。天正4(1576)年に築城されました。

寛文2(1662)年に新城城主菅沼定実が景勝地の笠岩に桜を植えさせたのが桜淵の始まりといわれています。

豊川は明治まで舟運がさかんにおこなわれていました。新城は吉田方面から舟で運ばれた荷が陸あげされ、馬でさらに信州方面へと運ばれる拠点として、山湊馬浪(さんそうばろう)と呼ばれるほど、にぎわいました。荷の積みおろし場がいくつもあり、河岸(かし)の跡が桜淵にも残っています。

桜淵の右岸に建ち並ぶ旅館の足元から豊富な水が湧き出ています。これは基盤岩とその上の段丘堆積物との間を水が移動し、段丘崖の境界面から湧水となって流れ出たものと考えられます。



西南日本の地質を二分する大断層が、豊川のほぼ真下を通っています。桜淵では、笠岩や蜂の巣岩が三波川帯の結晶片岩です。いっぽう、田町川が豊川に注ぐ付近では、領家帯の花崗岩源の圧砕岩(断層岩)が露出しています。

中央構造線は、三波川変成帯と領家変成帯が接する断層ですので、それぞれの露頭の間を通っていると推定されます。

川の右岸と左岸

川の下流方向を見て右手側を右岸、左手側を左岸といいます。

河原(川原)の石ころ

桜淵(豊川)の上流には、多様な地質が広がっています。旧寒狭川流域は領家帯で花崗岩類や片麻岩。その支流の海老川流域は堆積岩類と火山岩類が分布しています。宇連川流域には三波川帯の結晶片岩と、さらに上流には堆積岩類と火山岩類。その支流の阿寺川や黄柳川は三波川帯の変成岩が分布する地域です。これらの川から運ばれた岩石が長篠で合流し、桜淵の川原に集結します。ここは20種以上の岩石を観察することができる、地質標本の宝庫といえます。

桜淵の河原で見られる石ころの種類

でき方	岩石名
堆積岩類	頁岩、泥岩、砂岩、礫岩、石灰岩、凝灰岩、溶結凝灰岩
深成岩類	花崗岩、閃緑岩、はんれい岩
火山岩類	流紋岩、松脂岩、デイサイト、安山岩、玄武岩
変成岩類	片麻岩、緑色片岩、黒色片岩、蛇紋岩、石英片岩、角閃岩

笠岩

笠岩をつくっている緑色片岩は、海底に堆積した火山灰や溶岩が地下深く(15～30km)に押し込められて変成した岩石。

蜂の巣岩

蜂の巣岩をつくる石灰質の岩石は、珊瑚礁や石灰の殻を持った生物が海底に堆積してできた岩石。